



© JFA / PR



NADESHIKO JAPAN

VOL.44 2022.11.25

## 普及コーディネーター取り組み事例紹介①

長野県

坂巻 富子さん

### 【中学校年代への取り組みについて】



© JFA

県内各地で開催する「なでしこひろば」や小中学生女子のための育成アカデミー（女子地区トレセン的な位置づけ）の充実や、女子クラブのU15チームが増えたことで、中学校年代の環境はある程度、整っている。県内8チームが参戦する県女子U15リーグのほか、U14フェスやU13大会なども創設されるようになった。中体連登録の女子を集めたゲーム大会（7月24日、松本フットボールセンター）も実施している。社会人や高校生も出場する県女子リーグ、中体連の試合を掛け持ちする選手も多く、過密日程の中で消耗してしまう選手もいる。

## 【ガールズゲームへの取り組みについて】

コロナ禍ではあったが今年は、なでしこひろばや女子育成アカデミーに参加する選手の合同チームのほか、少女単独、少年団連合会の合同チームなど5チームが北信越大会に出場した。参加したチームの指導者は、他県的女子チームとの対戦は今後の成長の糧になったと話していた。今後も4種委員会と女子委員会の連携を深めて、小学生女子のゲーム環境の充実を目指したい。

## 【JFA女子サッカーデーへの取り組みについて】

コロナ禍のため、女子Sサッカーデーイベントの中止が相次いだが、2023年は、女子ワールドカップを盛り上げる女子サッカーデーイベントを企画していきたい。女子の全年代が集い、仲間との絆を深め、この先の発展につながるイベント内容を各チームなどから募集し、各年代の関係者による実行委員会的な組織で取り組みを進めたい。



## 【今後の目標】

この10年、女子選手の登録を増やせてきたのは、4種女子の登録人数を落とさない努力を続けてきた結果であることを踏まえ、「なでしこひろば」のさらなる拡大、初心者親子サッカー教室などの継続、レベルに応じたゲーム環境とは何か、選手に必要なスキルの獲得に向けたメソッドの提供、女性指導者の育成の組織化などをさらに促進していきたい。



## 普及コーディネーター取り組み事例紹介②

### 新潟県

菅原 豊さん

#### 【中学校年代への取り組みについて】

主に新潟市近郊において、小学生年代で上手だった女子選手達は、セレクションを受け女子U-15の強豪クラブチームで活動をしています。しかし、サッカーが好きでも、レベル的に強豪チームでプレーするのは難しい選手達は、中学生に入るとサッカー以外の部活に入ることが多いです。新潟市近郊に女子U-15のクラブチームが少ないことも原因の1つだと考えられます。そこで、上手い下手は関係なく、気軽に誰でもサッカーが楽しめる女子U-15のクラブチームが必要を考えておりましたが、周囲の協力もあり来年春から発足することになりました。これで少しでも中学生年代の女子選手が増えて貰えればと期待をしています。強化できるよう進めて行きたいと思います。

#### 【ガールズゲームへの取り組みについて】

新潟県内の各チームから、4年生～6年生の女子選手の参加を呼びかけ、合同チームとして、福井県開催のガールズゲームに一泊で参加してきました。昨年は、我が新潟県での開催の予定でしたが、コロナの影響もあり開催が出来なく残念な思いをしました。ガールズゲームは、ガールズエイトトレセンプログラムとはまた



違った取り組みのため、小学生年代の女子選手であれば誰でも参加が可能な大会なので、女子普及活動においてもとても貢献している大会だと思います。他県の女子チームと対戦する機会は少ないので、選手達にとっては良い経験になりました。今回参加した女子選手達は、来年も参加したいと言っていました。

#### 【JFA女子サッカーデーへの取り組みについて】

毎月1回のJFAなでしこひろばの開催、アルビレックス新潟レディースと連携をしてのガールズフェスタ、女子サッカー大会、女子フットサル大会等、年間を通して様々な取り組みを行っています。特にサッカー未経験者を多く受け入れているJFAなでしこひろばにおいては、サッカーを教えるという概念を外して、集まった女の子達とボールで楽しく遊ぶことを目標に対応をしています。その成果もあって、サッカーはとても楽しいものだと感じてくれる女の子が多く、更にサッカーチームに所属してくれる女の子も何人もおります。このような取り組みを、今まで以上に新潟県全体に広げていきたいと思っております。



## 【今後の目標】

新潟FAでも、小学生年代でプレーをしてきた女子選手が、中学生年代に入るとサッカーを続けるのを辞めてしまうことが課題になっています。今後の目標として、特に中学生年代における女子選手の減少を少しでも止められるように、経験者、未経験者問わず、定期的に女子選手達が集まって楽しく合同練習をするなどの環境を進めていきます。また、小学生年代の女子選手が少しでも増えるように、特にサッカー未経験者が楽しめるイベントの企画を新潟県の全市に取り入れて、今まで以上に女子普及活動に取り組んでいきたいと思っております。



## 普及コーディネーター取り組み事例紹介③

### 富山県

FA広報 佐野 晃子さん

#### 【中学校年代への取り組みについて】

今年度、県内の高岡市サッカー協会では、小学生年代から中学生年代に繋げる女子サッカーの普及の施策として「高岡なでしこアカデミー」を実施。月1回、居住地域の近隣の仲間と女子だけでサッカーができる活動を、地元的女子チームの協力を受けて開催。小学生を中心に24名のメンバーは毎月約7割が参加して、市サッカー協会のJFAライセンス所持者の指導のもとで活動。これまで半年活動してきたが、選手は女子だけでサッカーをできる環境に大きな喜びを感じている表情が見てとれ、この事業の必要性、有用性を実感した。この事業が高岡地域の女子サッカー普及に定着し、1～2年先の中学生年代の活性化に繋がりたい。



### 【ガールズゲームへの取り組みについて】

2021年が第1回目の開催だったが、コロナ禍で、中止となり、2022年度のガールズゲームが北信越地域での初めての開催となった。

富山県では、4種委員会が登録チームに声掛けをし、砺波地域で長年にわたり女子チームを作り活動してきたチームや、高岡地域で昨年度より開催している「なでしこアカデミー」から2チームの3チームが参加した。参加者からは、「PK戦までできた、女子だけで試合ができて楽しかった。」「もっとたくさんのチームとサッカーがしたかった」などの声が聞かれた。

次年度以降、大会の為に選手を募集するのではなく、4種、女子が連携し、定期的に集まりサッカーに親しみをもてる機会を作っていく事も必要だと感じている。

### 【JFA女子サッカーデーへの取り組みについて】

富山県では、「JFA女子サッカーデー」が定められた2020年以降、コロナ禍となり、これまで、事業は実施できていない状況だった。

2022年度においては、富山県内の女子サッカーの現状を踏まえ、キッズからU12、U12からU15などの移行期の年代をターゲットにするイベントや、保護者（ママ）向けの講座（栄養、ヨガ等）など様々な年代で、サッカーの経験有無に関わらずできる施策を、毎年2、3月のイベントとして定着できるよう実施したいと考えている。



### 【今後の目標】

富山県では、U12からU15への移行期に、県外への流出や近隣にチームがなくサッカーから離れる選手もいる。4種や中学生年代において、女子チームが活動しているという認知度の低さも原因の一つだと考えられる。

一方では、県内の高校4校が女子サッカー部として活動しており、過去の経験者や初心者の生徒が入部し、選手数が増えている良い現状もある。

これらを踏まえ、まず県内で「女子サッカー」の認知度アップの為に、定期的に県内各地域でのイベント開催や4種、3種、クラブユースなどとの連携。また”ママさん”サッカーとして、シニアとの連携など、種別を越え協力体制を構築しながら、認知度拡大から登録者数拡大につなげていきたい。

## 普及コーディネーター取り組み事例紹介④

石川県

北野 孝一さん

### 【中学校年代への取り組みについて】

女子委員会が中学校年代の取り組みとして最も力を入れているものが、3種と合同で開催している「中学校部活女子合同練習会」である。昨年からは、3種中体連との共同企画としてスタートした。月に1回程度の頻度で、県内の中学校部活で活動している女子選手たちに集まってもらい（任意）、中体連と女子委員会の指導者が協力しながら指導している。普段は男子選手の中で練習しているが、ここでは女子だけとの気安さ、遠慮のなさ、そして、良いピッチ、多くの指導者という環境に良い雰囲気醸成されている。

今年度は念願だったJFA2022年度中学校女子サッカー部フェスティバルに合同チームで参加することができ、選手にとって良い刺激となったようである。

### 【ガールズゲームへの取り組みについて】

現在、石川県では4種年代の女子選手のための単独登録チームがない状況である。そんな中、今年度は単独チーム（未登録）と男女混合の4種登録チームに在籍する女子選手による合同チームの2チームが参加した。合同チームの募集では、4種少年連盟の協力を得て、選手、チームへの告知を行うとともに、女子委員会の情報ツールを活用して編成することができた。また、女子委員会及び女子トレセンのスタッフが中心となって運営、指導にあたってくれ、選手にとって有意義な活動となった。

今後、来年度に向けては4種委員会との連携をさらに強化し、女子選手の多くが参加できる体制づくりをめざしたい。

### 【JFA女子サッカーデーへの取り組みについて】

これまでの試合中心の取り組みからフェスティバル形式への取り組みに変更しようと考えている。11月27日に開催されるJFAファミリーフェスティバル「ファーストタッチ」の募集で定員を大幅に超える応募があり、参加できない方への代替事業を含め、初心者拡大の機会としたいと考えている。また、今回のサッカーデーでは、今年度から女子委員会広報部に創設された大学生、高校生が中心となる「ワーキンググループ」（この年代の女子の発信力と発想力に期待して組織された。）のアイデア、参画が期待されている。

### 【今後の目標】

ここ数年、女子委員会の組織を改革し、ようやく機能してきた。多くの取り組みがある中、組織的に大きくない石川県では「身の丈にあった、チャレンジングな活動」を着実に展開しようと考えている。特に、普及活動を最重要課題として力を入れて取り組んでいくつもりである。それは、短期的には女子選手数の拡大につながり、長期的に見れば女子委員会にかかわる人材の確保にもつながり、石川県の女子サッカー発展の礎となると考えるからである。



## 普及コーディネーター取り組み事例紹介⑤

福井県

河端 修人さん

### 【中学校年代への取り組みについて】

U15年代の競技者を増加させることを中心に取り組んでいます。

1つの問題として、U12年代の選手がU15年代へ進学する際の選手の中には各地域にあるチームを認知していないことや、募集していることを知らずにサッカーから離れてしまうということがありました。そういった問題の解決策として、U12年代の選手たちにチームの情報を提供する場を設けたり、チームの活動を体験してもらう機会を作るということに取り組みました。各地域での「なでしこひろば」の定期開催を各地域のチーム主管の元で行いその為の告知も協会HPやチームHPなどを通じて多くの人の目に触れる様なアクションをこれからも起こし続け、競技者の増加を図っていきたい。

### 【ガールズゲームへの取り組みについて】

今年度は福井県開催でガールズゲームを行うこととなりました。福井県からは4チームが出場することができ、多くの選手に試合を楽しんでもらえたと思います。また同じ日程でガールズフェスティバルを小学校低学年を対象にして行い、より多くの年代がサッカーに触れ合える機会を設けることを考えておりました。フェスティバルの方は参加人数や県外からの参加がなかったことが反省点ではありますが、この反省をもとに次回開催に向けて良い準備を進めていきたいと思います。

### 【JFA女子サッカーデーへの取り組みについて】

昨年は今なお続くコロナ禍の中で開催が出来なかった地域でのフェスティバルを今年は開催したいと計画しています。そのフェスティバルの開催にあたり、多くの選手に対して夢を持ってもらえる様なゲストをお呼びするなどし、コロナ禍の中で色々と制限された中で活動する選手たちに改めてサッカーの楽しさを伝えられる機会にしたいと考えています。

### 【今後の目標】

福井県の課題はU12年代、U15年代の普及・底辺拡大だと考えています。今あるフェスティバルはすでにチームに所属している選手に向けたイベントになっており、新しくサッカーを始める子たちには少しハードルの高いものになっていると感じています。参加者の確保など難しい課題はありますが、普及を前提としたイベントの充実を考えていきたいです。

今回のガールズゲームで改めて感じたことではありますが、女子選手の普及・育成には四種のチームの協力なしでは成り立たないということを強く感じました。これを機に連携を深めていくことを今後取り組んでいきたいと思います。

## プレナスなでしこリーグ2022 表彰式

2022シーズンも10月16日(日)をもって、リーグ戦がすべて終了し、10月26日(水)に表彰式を開催いたしました。各賞受賞者は下記の通りです。

今シーズンもなでしこリーグの試合開催に対しご協力いただき、誠にありがとうございました。

表彰式のダイジェスト映像をYouTube「[なでしこリーグチャンネル](#)」にて公開中。



	受賞名	なでしこリーグ1部	なでしこリーグ2部
チーム表彰	優勝	スフィーダ世田谷FC	静岡SSUボニータ
	2位	伊賀FCくノ一三重	JFAアカデミー福島
	3位	ASハリマアルビオン	大和シルフィード
	フェアプレー賞	朝日インテック・ラブブリッジ名古屋	静岡SSUボニータ

受賞名	特別表彰	備考
300試合出場選手	深澤 里沙 MF(スペ大阪)	2022/5/14(達成日)
特別賞	中野 真奈美 MF(スペ大阪)	リーグ通算出場記録更新 2022年4月10日達成
最優秀審判賞	近藤 恭子	



## プレナスなでしこリーグ2022 表彰式

	受賞名	なでしこリーグ1部	なでしこリーグ2部
個人表彰	最優秀選手	大竹 麻友 (S世田谷)	濱本 まりん (大和S)
	得点王	千葉 園子 (Aハリマ)	板村 真央 (ac福島) 濱本 まりん (大和S)
	敢闘賞	千葉 園子 (Aハリマ)	—
	新人賞	倉富 祐歌 (S世田谷)	板村 真央 (ac福島)
	優勝監督賞	神川 明彦 (S世田谷)	—

### ベストイレブン(なでしこリーグ1部)

GK	石野 妃芽佳(S世田谷)	MF	三本 紗矢香(S世田谷)
DF	小山 史乃観(C大阪堺)	MF	三橋 明香(伊賀FC)
DF	秦 美結(伊賀FC)	MF	浦島 里紗(オルカ)
DF	渡辺 瑞稀(S世田谷)	FW	大竹 麻友(S世田谷)
MF	千葉 園子(Aハリマ)	FW	山田 仁衣奈(名古屋)
MF	百濃 実結香(C大阪堺)		



## プレナスなでしこリーグ2022 表彰式

### ◆ ご登壇いただいたプレゼンターの皆様

- ・佐々木 則夫 (公益財団法人日本サッカー協会女子委員長)
- ・高倉 麻子 (なでしこリーグOG選手)
- ・大野 忍 (なでしこリーグOG選手 / 現大宮アルディージャVENTUSコーチ)
- ・中澤 佑二 (元サッカー日本代表選手)



リーグとのコラボ  
ver.MVは  
[こちらから](#)

### ◆ 特別出演 : ZILLION (ソニー・ミュージックアーティスト)

今季テーマソングを歌う、ZILLIONのメンバーが選手たちのお祝いに駆け付け、テーマソング「One Day」のなでしこリーグコラボver.MVを披露。なでしこリーグHPにて公開中！！



## ■ 2023年 なでしこリーグ1部

### ■ なでしこリーグ1部の昇格について

- ・セレッソ大阪堺レディース、アンジュヴィオレ広島(両チームなでしこリーグ1部所属)の退会により、なでしこリーグ1部は、なでしこリーグ2部から2チームを自動昇格とし12チームとした。
- ・2022プレナスなでしこリーグ2部で優勝した静岡SSUポニータ、2位のJFAアカデミー福島は1部自動昇格の権利を得たが、JFAアカデミー福島は2部加盟基準を満たしていないため、静岡SSUポニータと3位の大和シルフィードが1部に自動昇格した。

### 【なでしこリーグ1部(12チーム)】

バニーズ群馬FCホワイトスター	※昇格	静岡SSUポニータ
オルカ鴨川FC		朝日インテック・ラブリッジ名古屋
スフィーダ世田谷FC		伊賀FCくノ一三重
日体大SMG横浜		スペランツァ大阪
ニッパツ横浜FCシーガルズ		ASハリマアルビオン
※昇格 大和シルフィード		愛媛FCレディース

## ■ 2022プレナスなでしこリーグ2部入替戦

### 最終順位確定のお知らせ 2022プレナスなでしこリーグ2部入替戦

2022プレナスなでしこリーグ2部入替戦は、本日すべての試合が終了し、最終順位が確定しました。結果により、岡山湯郷Belleのなでしこリーグ2部残留が確定し、ヴィアマテラス宮崎および、FCふじざくら山梨は、なでしこリーグ2部への参入の権利を獲得し、12月に開催される理事会にて審議後、正式承認となりますことをお知らせいたします。

### 2022プレナスなでしこリーグ2部入替戦

1位 ヴィアマテラス宮崎 (2023年度なでしこリーグ2部参入)

2位 FCふじざくら山梨 (2023年度なでしこリーグ2部参入)

3位 岡山湯郷Belle (残留)

結果は以下の通りです

順位	チーム名	勝点	試合数	勝	分	負	得点	失点	得失点
1	ヴィアマテラス宮崎	9	3	3	0	0	11	1	10
2	FCふじざくら山梨	6	3	2	0	1	4	4	0
3	岡山湯郷Belle	3	3	1	0	2	5	11	-6
4	ディオッサ出雲FC	0	3	0	0	3	3	7	-4

## ピンクリボン運動

なでしこリーグは、日本サッカー協会(JFA)、公益社団法人日本女子プロサッカーリーグ(WEリーグ)と共に、乳がんの啓発活動である「ピンクリボン運動」に賛同し、「ピンクリボン月間」となる10月に行われる試合会場においてピンクリボン運動賛同の意を示すバナーを掲出。



# 私たちは、ピンクリボン運動に 賛同しています



### ●2022プレナスなでしこリーグ1部

\*バナー掲出試合

節	開催日	対戦カード	K/O	都道府県	スタジアム
20	10/9(日)	伊賀FC - バニーズ	13:00	三重	上野運動公園競技場
21	10/10(月祝)	ニッパツ - 名古屋	13:00	神奈川	ニッパツ三ツ沢球技場
22	10/16(日)	オルカ - 愛媛L	13:00	千葉	鴨川市陸上競技場
		Aハリマ - 伊賀FC	13:00	兵庫	ウイंक陸上競技場

### ●2022プレナスなでしこリーグ2部

節	開催日	対戦カード	K/O	都道府県	スタジアム
17	10/1(土)	ac福島 - つくば	14:00	静岡	時之栖スポーツセンター裾野グラウンド天然芝
	10/2(日)	静岡 - DR広島	13:00	静岡	磐田スポーツ交流の里ゆめりあサッカー場
18	10/9(日)	V三重 - ac福島	13:00	三重	朝日ガスエナジー東員スタジアム
		吉国大C - 静岡	13:00	岡山	高梁市神原スポーツ公園多目的グラウンド



## 2022-23 Yogibo WEリーグが開幕

「2022-23 Yogibo WEリーグ」は、10月22日(土)に開幕しました。最終節となる2023年6月10日(土)または11日(日)までの間に全22節、合計110試合を開催します。INAC神戸レオネッサの連覇となるか、それを阻止するチームが出てくるのか。初年度よりレベルアップした熱き戦いにご期待ください。

<試合日程はこちらから> <https://weleague.jp/matches/>



## JFA Magical Field Inspired by Disney ファミリーサッカーフェスティバル “First Touch” in 東京を開催

10月1日(土)味の素フィールド西が丘に隣接するHPSGフットサルコートにて、「JFA Magical Field Inspired by Disney ファミリーサッカーフェスティバル”First Touch” in 東京」を開催しました。

こちらは、2022-23 WEリーグカップ決勝の開催に合わせて、JFAの協力を得ての開催となりました。

当日は、海堀あゆみさん(WEリーグコミュニティオーガナイザー、元 INAC神戸レオネッサ)、小林弥生さん(元 日テレ・ベレーザ)、原菜摘子さん(元 日テレ・ベレーザ)、山根恵里奈さん(元ジェフユナイテッド市原・千葉レディース) のゲストコーチとともに、43組86名のファミリーがサッカーを楽しみ、会場は元気な笑顔で溢れました。また、参加したお子さんは全員サッカー初心者・未経験の小学校1年生～3年生で、最初は緊張の面持ちだった子どもたちもプログラムが進むにつれ徐々に表情がほぐれ、最後は笑顔いっぱいボールを追いかけました。

WEリーグはこれからもJFAやWEリーグ所属のクラブと連動しながら、スポーツ好きな子どもを増やし、サッカーの裾野を広げていく活動を行っていきます。



## 【開催の様子をご紹介します】



### ◆オール青山スポーツコミュニティ（東京都）

10月18日（火）初回開催、25日（火）

毎週火曜日19:00～20:30の活動で続けております。

活動開始から1か月が過ぎ、徐々に参加者も定着して参りました。場所柄、学生、教職員が多くなるものと予想しておりましたが、近隣にお住いの子育て世代のお母さま方が仕事帰りにお立ち寄り頂いたり、親子連れで立ち寄って頂けたりと、バラエティに富んだ参加状況、有難い限りです。

初回より、なでしこリーグ元京都所属の女性指導者がコーチングスタッフに加わり、女性トレーナー兼コーチと共に賑やかに活動しています。



12月にはFIFAワールドカップカタール大会を記念して、オール青山スポーツコミュニティ主催で、学院内と近隣地域の皆さんに呼びかけてサッカーフェスを開催します。学院内の教職員チーム、外国人留学生チーム、地域の商店会チームなどの参加が予定されていますが、なでしこひろば in 青山学院チームも参戦予定です。年齢、所属も多種多様な編成ですが新たな目標に向かい頑張ります！

<12月の開催予定> 2022年12月6日（火）、13日（火）、20日（火）



◆FIRST TOUCH by osaka-pioneU15（大阪府）10月16日（日）初回開催



初回開催を10月16日(日)に行いました。募集15名に対して参加者が8名でした。

課題の1つは日程でした。地域小学校の運動会や秋祭りと重なってしまいました。サッカー未経験の子どもたちに来てもらうにはいろんな「ひと手間」が重要だと再認識しました。

参加者は小学1年生の未経験者が2名、所属チームのある小学生で3年生4名、4年生1名、5年生1名でした。

パスコントロールの練習では低学年は親子で行いました。ゲームでは低学年は親子対戦、中学年は3vs3で対戦の2コートを作っていました。

初回の人数は少なかったですが、次回の日程をおたずねいただくなど、活動は楽しんでもらえたと思います。参加者のレベルや個人差を見て臨機に対応できるよう、指導者のスキルや準備も高めていきたいと思います。



【なでしこひろばデータをまとめてみました】

都道府県別認定団体数及び2022年10月開催申請数

都道府県	団体数	開催申請数	都道府県	団体数	開催申請数
1 北海道	16	6	25 滋賀県	8	2
2 青森県	5		26 京都府	8	1
3 岩手県	5	6	27 大阪府	19	5
4 宮城県	11		28 兵庫県	11	
5 秋田県	3		29 奈良県	3	
6 山形県	2		30 和歌山県	3	
7 福島県	2		31 鳥取県	7	6
8 茨城県	9		32 島根県	1	
9 栃木県	16	4	33 岡山県	11	6
10 群馬県	5		34 広島県	10	
11 埼玉県	38	5	35 山口県	2	
12 千葉県	12		36 香川県	8	
13 東京都	63	12	37 徳島県	5	2
14 神奈川県	24	1	38 愛媛県	4	
15 山梨県	6		39 高知県	2	
16 長野県	12	7	40 福岡県	13	
17 新潟県	7	2	41 佐賀県	6	3
18 富山県	4	3	42 長崎県	7	
19 石川県	6	2	43 熊本県	4	
20 福井県	6	2	44 大分県	5	
21 静岡県	13	4	45 宮崎県	3	
22 愛知県	22	3	46 鹿児島県	2	
23 三重県	10		47 沖縄県	8	
24 岐阜県	5		合計	452	82

【2022年10月データ】

- ・ 全国登録団体数 : 452団体
- ・ 新規登録団体数 : 4団体
- ・ 認定団体数の全国トップ3
  - 1) 東京都 (63団体)
  - 2) 埼玉県 (38団体)
  - 3) 神奈川県 (24団体)
- ・ 全国開催申請数 : 82開催  
(9月の開催申請数から1開催増)

街にはクリスマスの飾りが目につくようになり、いよいよ今年もあと1カ月と少しくなりました。年末年始の予定を立てていらっしゃる方も多いと思いますが、新型コロナウイルスの感染者数も、全国的にまた少しずつ増えているようです。インフルエンザの流行にも備え、引き続き、気をつけてお過ごしください。ご無理のない範囲で、冬休みのご予定に、なでしこひろばの開催もご検討いただけますと幸いです！

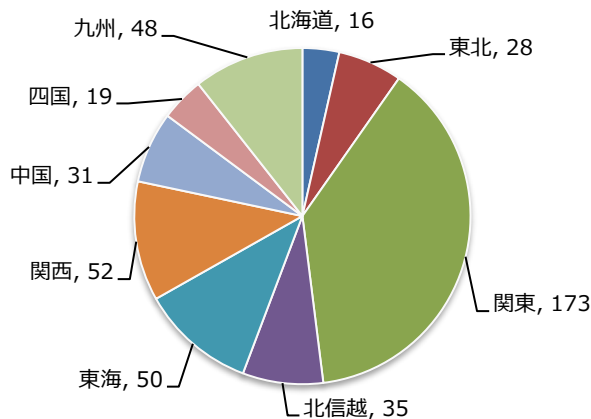
【事務局の受け付けが変更になっております】

2021年4月から、なでしこひろば事務局の受け付け・お問い合わせ方法をメールのみの対応とさせていただきます。これまでの電話受け付けがなくなり4月1日以降はメールのみの対応とさせていただきます。各団体様にはご不便をおかけいたしますが、何とぞご了承のほど重ねてお願い申し上げます。

E-mail : [info@nadeshikohiroba.jp](mailto:info@nadeshikohiroba.jp)  
(今までのアドレスと変更ありません)

地域別認定団体数

北海道	16カ所
東北	28カ所
関東	173カ所
北信越	35カ所
東海	50カ所
関西	52カ所
中国	31カ所
四国	19カ所
九州	48カ所
【合計】	452カ所



<http://www.jfa.jp/nadeshikohiroba/>

※次回は2022年12月12日(月)ごろ配信予定です。お楽しみに！